



移住就農

新規参入

研修制度

さ さ き たかひろ
佐々木 貴宏さん（吉備中央町）

就農：2019年4月（就農当時36歳）

新規就農研修：2017年4月～2019年3月

就農パターン：移住就農（北海道出身）

耕地面積：75a（うち借地65a）

経営面積：ぶどう75a（ピオーネ50a、
シャイン20a その他3種）

経営参画者：本人、妻、期間雇用3人

**家族との時間を大切にしたいと思い、同じ思いを持つ先輩農家が多い
この町を選んだ。夫婦二人でどこにも負けない品質のブドウを作りたい。**

——就農のきっかけは？

移住前は北海道で会社勤めをしており、深夜の帰宅が頻繁にある生活だった。しかし、子どもが生まれ、家族のことを考えた時、「自然の中で家族との絆を大事にしながら、子育てをしていきたい」と思うようになった。吉備中央町は、自然豊かで、移住や就農に対するサポートが充実していたこともあり、この町で農業をしたいと思い移住を考えた。最終的には妻に「やってみたら」と少し強めに背中を押してもらって、就農を決意した。

——前職の経験を活用できている？

設備や機械メンテナンス関係は農業分野においても知識・技術が活用できている。

——岡山（吉備中央町）を選んだ理由は？

雪の少ないところがよく、西日本に絞って多くの情報を検討したところ、家族との時間を大事にしている新規就農者が多い吉備中央町に魅かれた。さらに調べてみると岡山県、吉備中央町は移住や就農へのサポートがしっかりしており、新規就農研修の

受入先が農業公社（就業時間が明確に管理されているし、トラブルも少ないだろう！）であることもわかり、魅力的だった。

——「ぶどう」を選んだ理由は？

「岡山のぶどう（ピオーネ）」は海外でも人気が高く、ブランド力があり、経営的にも収益性が高く、生計を立てていけると考えた。

——就農で苦労した点と解決方法は？

【農地】

果樹を苗木から育てると、はじめの数年は所得がゼロになる期間があるのが難点。農業公社では研修を受けた新規就農者を対象に、順番待ちなどいくつか条件はあるものの、すぐに収穫できる成園を最長5年間貸し出しており、大変助かった。これも吉備中央町を選んだ理由の一つだった。

【資金（経営・生活）】

2017年に移住したが、就農を決意したのは2015年。その間とにかくお金を貯めることや情報収集に徹した。特に果樹

では、最初の数年間の収入がないので、収穫できるようになるまでの間、とにかく自己資金が必要。ぶどうだと成木になるまで5年間かかる。幸い自分の場合、公社から収穫可能な成園を借りることができ、並行して新しいほ場に苗木を新植したので、成園化までの期間も収入を得ることができた。とはいうものの、借りている成園の規模が十分でなかったこともあり、就農直後は勉強と情報収集を兼ねて週1回公社でアルバイトした。

【栽培技術】

もともと農家ではないため、研修の中で一年を通してぶどうの管理方法などを学んだ。やること、学ぶことすべてが新鮮で、つらいと思ったことはなく、ぶどうの生育を実感できる毎日が楽しいと思えた。

研修中は指示に従って作業することが多かったが、独立したらすべて自分で考え、判断し動く必要がある。また、研修では成木の管理を中心に行っていたので成木までの育成途中の管理はわからないこともあったが、週1回のアルバイトで指導員や先輩農家にアドバイスを受けることができ、ありがたかった。研修後も農業公社を通じてできた人脈を活用し、相談したり講習会に参加したりして、課題や問題を解決してきた。

【住宅】

当地ではピオーネで新規就農を目指す方に対し、実務研修期間中、町営住宅を確保してもらえる。当時妻が妊娠中だったため、自分も、最初町営住宅を借りて単身で移住していたが、子どもが生まれた後を考え、しばらく後に町の空き家バンクで探した少し広い住宅の借家住まいに切り替えた。その後、住まいの将来について、中古住宅のリノベーション等いろいろ模索、検討したが、結果的に新居を

新築した（インタビュアーの感想：新居は近代的で明るくおしゃれ。柱は最小限に抑えられて空間が広々としており開放的、かつ、すでにバリアフリー化されており、旧来の農家住宅の概念が覆りました！）。



【機械・施設の準備】

ぶどう棚のメッシュや灌水装置など、機械、装置については新品、中古にこだわらず自己資金で揃えた。棚の支柱など基礎部分は、自分での施工が無理なので借入資金を活用して設置した。

【労働力】

当初から必要労働時間の目安を県が示してくれていたもので、成園化に伴い労働力が必要になることを想定しており、現在は妻の手伝いや期間雇用の導入を図っている。

——計画と現実のギャップはあった？

移住、就農するに際して、失敗だけは避けなければならないと考えていたが、自分で納得いくまで調べたうえでの決断だったので、移住前に1か月間の農業体験研修に参加して不安もなく、しんどいこともあったが想定内で過ごすことができた。また、当初願っていたとおり家族との時間を増やすことができており、幸せを感じている。

——地域への適応、順応に苦労した点、気を付けた点は？

そもそも田舎に住むという事に対して地域との関係を築くという心構えはもっていた。家やほ場を地元や農業公社の指導員の

方々の協力で得ることができ、地域との関わり大切さを痛感している。現在も、消防団や地域の青壮年部に参加している。

——今後やりたいことは？

先輩のようなきちんとしたピオーネ作りを目指し、どこにも負けない質の高いピオーネを作りたい。身の丈に合った計画で、慎重に進めていきたい。

——経営目標は？

ぶどうは房数と単価で経営計画を立てやすい作物だと思うが、規模拡大を目指すのではなく、自分が考えている規模できちんと高品質なぶどうを生産していきたい。

——農業のやりがいとは？

そもそも農業を目指したのは家族との時間、子育てに時間を充てていきたいためだった。忙しい時は時間が割けないこともあるが、深夜まで働いていた前職と比べたら、食事や風呂など難なく一緒にできる。家庭の部分でやりがいを得ることが多い。また、農業は、自分次第で収益を上げることができ、自分の計画次第でいろいろな事ができるので、やりがいにつながっている。

——産地に入るメリットは？

産地ではブランド、地域特産的な価値が一定程度保証されるので、経営計画上大きなメリットになっている。

——今の産地の魅力は？

ここでは産地と町が切り離せない。新規就農者の受入が多い町なので、新規就農への対応に慣れており、新規就農者が困ったことに対しても解決策が用意されているのでスムーズに対応できる。安心して就農できる、やさしい町だと思う。

——印象深いエピソードは？

借入園地が、幹の直径 30cm を超える大きな雑木も繁殖している耕作放棄地だったため、苗木を植えるまでにきれいにする必要があった。時間が迫る中、気が遠くなる作業を黙々と1人でやっていて、焦る場面もあったが（けがをしても痛み止めを飲みながら！）、地主さんが協力してくれて新植に間に合わせる事ができた。

——後進へのアドバイスは？

新規就農にあたって生活や農家としてやっていけるかについての不安があると思うが、吉備中央町は新規就農者の受入が県内でも多く、様々な支援も用意されている。受入先の農業公社の職員は町内の人なので、研修を受けながら地元の人たちとつながることができる。そうすると地域や農地についての情報も得られるし、就農後も相談できる。ここは安心して就農できる地です。

——就農前の自分へのアドバイスは？

壁を乗り越えた先には明るい未来がある。

——私の一文字

「絆」。

家族をはじめ、人と人との絆が大事です。

